

「生涯なんもしない相方」

—修正稿—

2025/12/19

しののめ ののの

△人物表△

坂井 光也 (35) お笑い芸人

細川 正伸 (35) 坂井の相方

小平 平介 (38) 坂井と細川の芸人仲間

広野 慎太 (45) 坂井と細川のマネージャー

タクシー運転手

1.

TV局・収録スタジオ（朝）

派手なセットが組まれたスタジオ。

バラエティ番組の収録が行われており、ひな壇に芸人やタレントたちが数人座っている。

彼らの視線の先には司会者。

坂井光也（35）、相方の細川正伸（35）と並んで座っている。

坂井、細川を指しながら声を張る。

「ほんとに相方が無能なんですよ。何にもしない。何にもできないんですよ」

司会 「ほんとに？ 坂井が厳しすぎるだけじゃないの？」

坂井 「ほんとですって。仕事の量も俺と全然違うし。レンタルなんもしない人の方がまだなんかしてますって」

司会 「つて言われてるけど、どう？ 細川的には」

細川 「うーん……えっと……まあ、確かに……」「ほら」

坂井 「ほら」覧の通り。返しの一つもろくにできない

スタジオで笑いが起きる。

坂井、大袈裟に呆れたような表情をキープ。

細川、眉間に皺を寄せている。

2. TV局・楽屋（昼）

収録を終えた芸人たち、楽屋に入ってくる。

数人の男性芸人の中に、坂井と細川も混じっている。

坂井、軽く息を吐き、そこから高速で着替える始める。

芸人仲間の小平平介（38）が声を掛けてくる。

「この後飲むけど、来る？」

小平 「昼間つから飲むなよ。俺、夜まで仕事」

小平 「流石だね」。（細川に向かって）細川も？

離れた場所で着替えていた細川、「いや俺は空いてる」

細川 「さっすが細川。今日もノリノリだったしね」

坂井、着替えながらも咄嗟に反応する。

坂井 「いやどこがだよ。何一つ生み出してないだろ」

細川 「んーいや、まあ……」

坂井 「ほら。さつきたと同じ弄りされてんのにまだ返し考えてねえの。てかずーっとそう。中学ん時からずつと」「とか言つて~」

小平 「いや、とか言つて~とかは無い。からの~? は無い」

「ですが~?」

坂井 「今回に限り~? ではない。永遠に無価値。最初っから小平 坂井 小平 坂井 「ですか~?」

「今回に限り~? ではない。永遠に無価値。最初っから粗悪品」

小平、笑いながら離れていく。

高速で着替えを終えた坂井、だらだらと着替えている細川のもとへ。

坂井 「じゃあ俺いくわ。あんま飲むなよ。新ネタ入れとけよ」

細川、渋い表情で小さく頷く。

坂井 「え、なにその態度……本気でキレてる?」

細川 「別にキレイではないよ。早く行けよ」

坂井、細川の態度に眉をひそめつつ、樂屋を出る。

3. 別のTV局・収録スタジオ（昼）

坂井、別のスタジオでも熱心にトークをしている。

坂井 「ほんと使えないんすよアイツ。今度この番組で詰めてやつてくださいよ。だつてこないだの現場でも――」

4. 別のTV局・収録スタジオ（昼）

坂井、電気椅子で全力のリアクション。

坂井 「痛い痛い痛い痛い。何で俺がこんな目に遭わなきゃいけないんですか。こういうのは相方にやらせてくださいよ」

5. 別のTV局・収録スタジオ（夕）

坂井、情報系バラエティでスイーツを試食している。

坂井 「うわーこれは美味え。外はサクサク、中もサクサク――」

6. 別のTV局・関係者出入口（夜）

坂井、他のタレントに紛れてTV局から出てくる。

共演者1 「おつかれしたー」
共演者2 「坂井さん、飲み行きます?」

坂井 「いやごめん無理だわ。明日5時起き」

共演者2 「相変わらず忙しく。おつかれっすー」

坂井、賑やかに去っていく共演者たちを見送る。

疲れた表情で息を吐き、足早にタクシーへ乗り込む。

7. タクシー内（夜）

坂井、バラエティ番組の台本を読み込んでいる。

不意に電話が掛かってくる。

坂井、怪訝な表情を浮かべ、電話に出る。

坂井 「……お疲れ様ですー」

広野の声 「お疲れ。今大丈夫？」

坂井 「大丈夫ですけど……どうしたんすかこんな時間に」

広野の声 「坂井くん、あのさ……大変なことになっちゃった」

坂井 「え？」

8. 総合病院・個室（夜）

坂井と広野慎太（45）、足早に病室に入る。

細川 「すんませえん」

坂井 「何やつてんだよお前」

広野 「電気椅子のリアクションを練習してて、腰打つたらしい」

坂井 「はあ？ なんでそんなこと……飲み会は？」

細川 「行くのやめた」

坂井 「そんで練習してたの？」

細川 「うん。電気椅子と空気椅子の練習してたら、ごつちゃになつちゃつて。間違えてなんもないところに座つちゃった」

坂井 「どういうミス？ どういう練習メニュー？」

広野 「大したことないらしいけど、一応しばらく入院かなって」

坂井、大きくため息。

坂井 「……てか新ネタは？ そつちの練習は？」

細川 「あつ、忘れてた」

坂井 「……」

9. TV局・楽屋（昼）

坂井、TV局のプロデューサーに頭を下げている。

坂井 「本当に申し訳ありません。今日は僕一人でお願いします」

10. TV局・収録スタジオ（昼）

坂井、ひな壇に座つて司会者とやり取りしている。

司会 「今日相方いないじゃん坂井。引退したんだっけ？」

坂井 「いやしてないすよ。まだ。怪我でね～すいませんほんと」と、困ったように笑いつつ、周囲に謝罪している。

11. 地方のイベント会場・屋外ステージ脇（昼）

坂井、イベント前の会場で、依頼主に謝罪している。

坂井 「相方が療養中でして。僕一人できっちり漫談しますので」

12. 別のTV局・収録スタジオ（昼）

坂井、ひな壇で細川の等身大パネルと並んでいる。

坂井 「もうこいつの方が役に立つかもしれない」

周囲、ウケている。

13. ラジオブース（夜）

坂井と細川、ラジオを収録している。

部屋の隅に等身大パネルが置かれている。

坂井 「という訳で、2週間ぶりの登場です」

細川 「えーこの度は皆様、ご心配をお掛けし、申し訳ございましたでした」

坂井 「ほんとにな。どんだけ頭下げて回ったと思つてんだよ」

細川 「返す言葉もございません」

坂井 「いつもろくに返してねえだろ。大体何で怪我したんだよ」

細川 「それはちょっと、言えないんですけど……」

坂井 「電気椅子の練習してたんだろ。なにやつてんだよマジで」

細川 「あつちょっと。影の努力をアピールするのはあんまり」

坂井 「かつこつけんな。練習すんなよ電気椅子を。大体お前み

たいなリアクション下手な奴に仕掛けられる訳ねーだろ」

細川 「だからこそ練習を……」

坂井 「そんで怪我してりや世話ねーだろ。頼むー。なんもしないでくれー。暇だからって努力しないでくれー。余計な

「…ことせず家でゴロゴロしといってくれー」

14. ラジオブース（夜）

収録が終わり、オンエアランプが消えていく。

細川 きこちなく立ち上かるうとする

堀井　喧嘩は立て上からで絶川を補助する

續川日記ノ二ノ三

15 タクシー乗り場（夜）

人等のない 深夜の外は、美い場

坂元、緑川、無言、
さーーい

「……ほんとう、すまなかつた」

「弱者」

坂井、全く気にしていない様子。

「……やつはつと思つた」

「なら謝んなよ」

「でも流石にこれは」

「別に良いって」

「……なんで？」

坂井、少

「なんでこて
何が」

「なんて怒らねえの？」

怪我しかんかからしゃれしやん

空氣の外が一ノ邊に傳まる。

「う前は、ハハハ…。」前が笑つたが、うおの胸の二三回

二

「スル。」
「アリ。」

「そ、う、だ、け、ど、裏、で、も、も、う、ち、よ、」
正義よ

「なんでだよ。なんで怒られたがつてんだよ」

「怒るべきところでは怒つた方が良いって」

「やだよねんべやこ

「めんどくさいとか言うな。俺を諦めるな」

坂井

「別に諦めてねえって。なんで俺が怒られてんの」

タクシー運転手、怪訝な表情で二人を盗み見ている。

細川

「お前が甘すぎるからだろ。やっぱいつて俺のポンコツ具合」

坂井

「自分で言うなよ。悲しくねーのかお前」「

細川

「だから俺だつて電気椅子を……」

坂井

「え、待つて。それで練習してたの？ コンビの為に？」

細川

「だから俺だつて電気椅子を……」

坂井、ぽかんとした表情。

坂井

「……反抗期じやなかつたんかい」

細川

「反抗期？」

坂井

「なんかムカついてんのかなつて」

細川

「は？ いや違うよ。なんか申し訳なくて」

坂井

「なんでだよ。できない、やらないのが仕事だろ。お前の」

細川

「そうだけど……それにしてもというか……」

坂井

「しょうがねえだろ。俺がお前のこと誘つたんだから」「

細川

「……」

タクシー運転手、窓を開けて二人に声を掛ける。

運転手

「あのー……乗られますか」

坂井

「あ、すんません」

細川

「二人、タクシーに近づく。」

「……飲み行くか。久々に」

坂井

「やだよ気持ち悪い。俺明日4時起きだし」

細川

「早え～……」

細川、ぎこちなく乗り込もうとする。

座席に座ろうとした瞬間、腰を押さえながら降りる。

細川

「いててて」

坂井

「え、大丈夫？」

細川

「……電気椅子」

と、タクシーの座席を指してニヤッと笑う。

坂井、思わず呆れたように笑う。

坂井

「いやなんも面白くねーから。紛らわしいことすんなつて」

二人、小さく笑いながらタクシーへ乗り込む。

夜の街をタクシーが走り去る。

おわり